

平成29年度 近畿地区青少年教育施設ユースミーティング
「引き出しが増える！若手のための指導系研修会」実施報告

1. 主 旨：近畿地区の青少年教育施設に所属する若手職員が集まり、各施設での取組や指導について学び、より良い指導法を考えるとともに、職員間のネットワークの構築を図ることを目的とする。
2. 主 催：近畿地区青少年教育施設協議会、近畿地区青少年教育施設を活性化するプロジェクト
3. 日 時：平成30年1月30日（火）～31日（水）
4. 場 所：大東市立青少年野外活動センター
5. 対 象：近畿地区青陽年教育施設に所属する若手職員等
6. 参加者：11名（詳細は別紙しおりの通り）
7. 内容等：

<1月30日（火）>

【研修Ⅰ プロジェクトアドベンチャー（以下、PA）を活用したアイスブレイク】

10:30～12:00

大東市立青少年野外活動センターの若手職員 小野氏により、PAを活用したアイスブレイクレクリエーションを指導していただいた。参加者からは、実体験を通してレクリエーション前後の心境の変化を感じられたとの声が挙がった。

具体的には、トランプを用いた計算ゲームや名前当てゲーム、ラインナップ（東西南北順、キャンプネームの50音順、年齢順）、ボールを用いたネームトス、パックマン鬼ごっこ、スナイパーとガードマンなど6種類のアイスブレイクゲームを体験した。

静的なゲームから動的なゲームへの変化や、徐々に名前を覚えるハードルを上げる展開など、工夫された場であった。



【研修Ⅱ PA体験】13:00～16:00

午前に引き続き、小野氏によりローエレメントのPAを指導していただいた。動きのある活動を通して、時間内に課題解決についてグループ内で意見を出し合い、目標達成を行うものだった。ふりかえりでは「心境の変化を表現することの大切さ」や「ふりかえりを行う場所設定の重要性」など、単なるゲームで終わらず自己開示の場となるよう留意して指導されていた。

具体的には、二人一組目隠し鬼ごっこや人間知恵の輪、ビニールボールの全員トス、ロープを使った脱出シミュレーションなどを体験した。



また、後半は同センター館長により、ハイエレメントのPAを指導していただいた。人間が最も恐怖を感じやすいとされる7mの高さから、仲間が握る命綱を信じて飛び、吊るされた球に触れるという内容だった。まず5名の参加者が体験を希望し、追って2名の参加者が追加で挑戦するという積極的な姿が見られた。ローエレメント・ハイエレメント問わず、PA指導においては一貫して「選択の重要性 (challenge by choice)」と「自発性の尊重」が語られた。



【研修Ⅲ 夜アクティビティ指導～ナイトハイキング&シェアリングネイチャー～】

19:00～20:00

尼崎市立美方高原自然の家 石井氏によりナイトハイキングとネイチャーゲームを指導していただいた。具体的には、「夜の音を探そう」「足音を照らせ」「カメレオンを探せ」など、学校団体（特に小学生）向けのゲームが多く紹介された。都市型施設の参加者からの「成人向けの夜景ハイキングは実績があるものの、ゲームを織り交ぜてターゲット層の幅を広げたい」という意見が印象的だった。

<1月31日(水)>

【研修Ⅳ・Ⅴ アクティビティの指導方法考察と共有】8:30～12:30

参加施設で共通性の高いアクティビティ（ハイキング・クラフト・野外炊飯）について、自施設の指導をより良くするためのワークショップを行った。まず、参加者それぞれの「指導にあたり大切にしたいこと」「指導にあたり不安に感じていること」をシェアし、理想と実態の差を共有した。次に、参加者それぞれが持ち寄った指導資料を基にして不安を補い理想を伸ばす資料例として、全体で発表を行った。



8. 参加者の声：

- ・良い学びの場になりました。
- ・今回の繋がりでも他施設と連携しての活動も視野に入れることができました。
- ・つながりができたことがとても大きい。
- ・メンバーが若返りながら続いていくことを期待しています。

9. 成果：

- ・昨年1月の若手研修会（キックオフミーティング）で、次年度に若手で実施したいプランに挙げた「指導系研修会」「近青協若手職員リスト」を実際に企画し、形することができた。